／【K：】Server／水道産業新聞／3月★／3月19日（4475）★／1面　2009.03.18 11.16.03　Page 1

水道産業新聞

水道産業新聞社
大　阪：〒530-0027 大阪市北区堂山町1-5
電　話(06)6312－3871
ＦＡＸ(06)6312－3874
東　京：〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-19-10
電　話(03)5251－0303
ＦＡＸ(03)5251－3802

多様化するライフラインの維持管理ニーズに応える
大成機工株式会社
www.taiseikiko.com
TAISEI KIKO

水道・下水道
水の総合専門紙
日本専門新聞協会加盟
水道産業新聞ホームページ
http://www.suidou.co.jp

世界の水問題解決へ橋を架けよう

第5回世界水フォーラム開幕

イスタンブール　130カ国、2万人が参加

第5回世界水フォーラムが16日午前（現地時間）、トルコ共和国のイスタンブールで22日までの7日間の幕を開けた。メキシコシティで2006年3月に開催された第4回世界水フォーラムを引き継ぎ3年毎に開かれるもので、今回の参加登録者数は過去最大級で130カ国、約2万人を超えている。（Y）

開会式はイスタンブール市内のゴールデン・ホーン国際会議・展示場で開かれた。冒頭、ロイ・フォーション世界水フォーラム会長は、「世界は経済発展に伴い水の需要が高まり、水不足は深刻になっている。我々は責任を持って水管理をしなければならない。水問題は全人類の共通の問題であり、『水問題解決のための橋をかけよう』が今回のメインテーマである」と挨拶。次世代のためには新しい橋、しかも沢山の橋が必要であると強調した。

その後、トバッシュ・イスタンブール市長、トルコ共和国・アブドラ環境大臣が挨拶。イスタンブールがローマ帝国の水道橋以来「水文化都市」の中心であったことなど、水の関する長い歴史を紹介。「この地での世界水フォーラム開催を歓迎する」と述べた。

日本の皇太子殿下は、「世界ではトイレの整備やし尿処理、下水の処理など、効率的に処理することが問われている。私は第4回メキシコでの水フォーラムでは、江戸時代の貴重な資源である『金肥』の話をしました。日本国民は、し尿を貴重な資源として活用し、お互いの利益を生みだしてきました。今、世界では、水災害、水不足、海面上昇、飲料水の不足、ヒマラヤの氷河の減少など、異なった問題が数多く提起されていますが、私たちは世界に向けて知識を共有し、国際社会と力を合わせ、問題解決に取り組むべきと考えます」「今こそ知識と叡智を傾け、行動を持って解決し、世界の隅々まで水を届けましょう。シルクロードを行くキャラバン隊のように新しい時代に勇気を与えることを祈ります」と、流ちょうな英語で挨拶を述べられた。

最後にトルコ共和国のアブドゥッラー・ギュル大統領は、「トルコは二千年余りの歳月を経て人種の交流、幾多の文明や文化の架け橋となってきた。水についても世界の架け橋となることを宣言する」と述べ、世界水フォーラムの意義を確認。会場を埋めた3千人から大きな拍手がわいた。

16日午後から具体的な会議が、フェサネ文化センターおよび国際会議場で開催される。併設されるイベントとして子供水フォーラムやユース水フォーラムも開催される。

17日は日本の皇太子殿下がメイン会場で基調講演をされた。

今回はメキシコのような反対運動はあまり見られなかった、しかし現地の報道によると反対派は会場の外でデモを行い、17人が拘束されたと伝えている。

技術セッションでは6つの水に対するチャレンジテーマ、23のトピックス、115のセッションの分科会が開催される。

水大賞の表彰式

ギュル・トルコ大統領

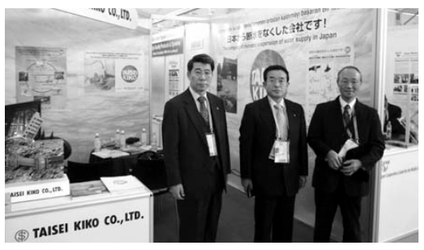
皇太子殿下

多くの子供も参加

日本パビリオンが人気

水のエキスポ館では「日本パビリオン」が人気を集めている。

日本パビリオンは日本水フォーラムが主催、参加日本企業が過去の主要な水に関する国際会議で、積み重ねて来た情報発信の場である。シンガポール国際水週間でも「日本パビリオン」が活躍した。日本パビリオンの規模は年々拡大し、イスタンブールでは18の展示ブース及び5つのポスター・カタログ展示ブースを確保。「日本ブランド」を強力にアピールしている。各ブースでは、日本の企業や水に関する団体が培ってきた技術、経験、ノウハウなど先進的な取り組みが紹介されており、多くの海外メディアからも注目され、来場者も多い。



大成機工のブースで右から坂本氏、御園氏、吉村氏

桜で日本をアピール

逐次改正に事業者の意見

日水協「検討準備会」を設置

厚生労働省が行っている水道水質基準の逐次改正で、改正の検討を進めるための準備会が日本水道協会に設置される。13日、日水協は第223回衛生常設調査委員会（委員長＝高橋清・仙台市水道局水質検査課長）を開き、設置を決めた。

水質基準は最新の科学的知見に従って逐次改正方式で改正を検討するよう平成15年に厚生科学審議会が答申。以降、眞柄泰基・北海道大学客員教授を委員長に学識経験者で構成される水道水質基準逐次改正検討会で検討が進められてきた。

しかし、この検討会では実際の水質管理を行う水道事業者が直接意見を述べる機会がなく、水道事業者サイドが意見を何らかの形で具申できるような体制づくりが必要だとの声が上がっていた。

そこで日水協に「水質基準検討準備会」を設置して、厚労省、学識経験者、水道事業者の三者が事前に、自由に意見交換できるようにする。準備会の構成は当面、現行の検討会の全委員と衛生常設調査委の正副委員長となる見込み。

技術、制度面で課題

下水道からのリン回収　国交省検討会が課題まとめる

国土交通省下水道部は3日、「第2回下水・下水汚泥からのリン回収・活用に関する検討会」（座長＝津野京大大学院教授）を下水道機構で開いた。検討会は今回で終了となり、下水道からリンを回収する際の課題についてまとめたものが公表される。技術面、制度面、経営面の課題をクリアして価格が高騰しているリンについて下水道からの回収を広めたい考えだ。

検討会では下水汚泥等からのリン回収に取り組んでいる自治体における現状や課題を把握するとともに、農業関係者等のユーザー側の実態やニーズを把握してきた。

その結果、下水道事業者としての課題は、▽回収原価の改善▽品質管理体制の構築があげられた。リンを活用する肥料メーカー・農業者としては、▽活用のための技術課題の明確化▽回収リンの肥料取締法上の位置付けの明確化・取り扱いの簡素化が示された。さらに回収リンのイメージ向上といった課題もある。

明らかにされた課題は解決に向け引き続き議論が行われる。

「水は国策」と訴える

御園日水協専務理事　円代議士の勉強会で講演

民主党の円より子参議院議員（＝財政金融委員長。同党副代表）の勉強グループ「ニッポンの智力を活かす会」の3月の例会が11日朝に行われ、メインスピーカーとして招かれた日水協の御園良彦・専務理事が『生命（いのち）の水道・ニッポンの設立について』と題し、講演した。

「欧米の水会社の動向と併せ日本の水道の今後に関心がある」という円議員の挨拶に続いて御園専務が登壇。日本の水道の現況や水道の安全保障に関する検討会について説明した後、「水道事業の運営基盤強化対策としての広域化推進、とりわけ公民連携の推進を目指す」と〝生命の水道・ニッポン〟の活動方針を紹介し、円議員や同じく民主党の鈴木寛・参議院議員をはじめとする聴衆も日本の内外の水道事情に強い関心を抱いた様子だった。

さらに、御園専務は、「日本の水道にとって今後考えられる最大のネックは農水の慣行水利権と地下水利用の未規制」と強調、「水は国策との考えで、ぜひ政党を離れて国のために考えていただきたい」と我が国の水道界が置かれている現状と課題克服に向けた取り組みに対する理解を訴えた。

水問題は党派を越えてと御園氏

石丸　浩・本紙論説委員が死去

（いしまる・ひろし＝水道産業新聞社論説委員）16日、急性心不全のため死去。71歳。昭和38年水道産業新聞社入社。編集長、専務取締役を歴任。平成13年論説委員に。昭和47年から1面コラム「水音」を担当。告別式は19日午前11時から愛媛県新居浜市の「ドリーマー上部会館」で執り行われた。

水音

大江健三郎は今も水泳だけは続けていて、プールで顔見知りの人から「全身運動ですもんネ」と挨拶される▼そこで彼は「あなたの使ってる辞書に〝全身運動〟って載ってますか？」と問いかける。知人の辞書にも著者の辞書にも全身運動は載ってないそうだ（『読書講義』より）▼著者は「再読のすすめ」のために全身運動を持ち出しており、原書と翻訳書と辞書と色鉛筆を用意して、じっくり読み進めるのが全身運動だというが、いかにもコジツケっぽい▼「水を語る会」では武藤芳照教授から正真正銘の〝全身運動〟を聞いた。「ゴルフは半身。水泳こそは全身運動です。水中歩行は前向き・後ろ向き・斜め歩きを」と勧め「その前後に必ずコップ一杯の水を飲む」と強調された▼大江氏はじめ作家の雑文には「机上に魔法瓶」というのが散見する。机に向かっていても、やはり全身運動なのか。

本号の内容

▽岩国南せせらぎセンター第1期工事完成（3面）
▽全国上下水道コンサルタント協会関西支部（4面）
▽グラビア＝地域水道ビジョン・山形市

下水道機構「技術サロン」18時からスタート

下水道機構の技術サロンが多くの人に来てもらいたいという理由で18時から開始に変更。次回は4月9日、「下水道における温暖化防止対策」＝花木東大教授。皆さんも帰りに寄ってみては？

休刊のお知らせ

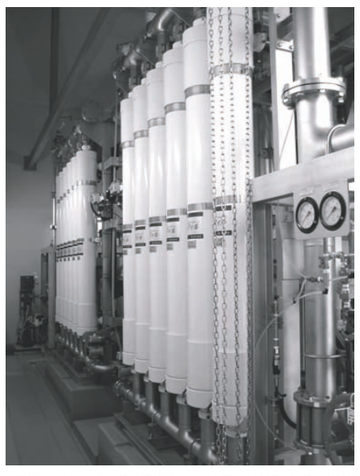
次号23日(月)付は休刊といたします。ご了承下さい。

仮設配管資材（ポリエチレンパイプ）レンタルシステム
「リユーズシステム」

KOMEIの仮設配管材料は何度でも再利用が可能
日本工業規格認証工場　※日本水道協会検査工場
水道器具製造販売　ISO14001/9001W認証取得
株式会社 光明製作所
〒544-0025　大阪市生野区生野東3丁目10番18号
TEL（06）6731-2031（代表）　FAX（06）6715-1737
ホームページアドレス　http://www.komei-ss.co.jp

電業社の
上下水道用ポンプ・ロートバルブ・曝気ブロワ
廃水処理装置・除塵機・ゲート設備
株式会社 電業社機械製作所
本　社：〒143-8558　東京都大田区大森北1－5－1
TEL.03（3298）5115　FAX.03（3298）5149
http：//www.dmw.co.jp

Kubota 美しい日本をつくろう。
孔造改革。
クボタ 充水バタフライバルブ
株式会社クボタ〈バルブ営業部〉
本　社 TEL.06(6648)2228　東京本社 TEL.03(3245)3488

SUIDO KIKO
マクセス膜ろ過設備
PVDF製UF膜
従来のUF膜に比べ、膜ろ過流束が3倍に（当社比）
設備のコスト負担を低減します！
主な特長
1. 安全性に優れています
膜はポリフッ化ビニリデン（PVDF）を素材とした非常に高い物理的・化学的耐久性を有しており、損傷（破断・生物侵食等）が極めて発生しにくい膜です。
2. 汚れにくい膜です
分画分子量は150,000Da、外圧式全量ろ過により汚れ成分が膜の中に進入しにくいため原水対応範囲が広く、安定した上質の処理が可能です。
3. 凝集剤は不要です
原水濁度100度以上でも凝集剤なし＊で安定した運転が可能です。
＊色度成分除去のため、凝集剤を使用する場合もあります。

水道機工の＜マクセス膜ろ過設備＞は、全国の浄水場・簡易水道設備に120余件の納入実績を誇る、膜ろ過設備です。
「人」と「水」の未来を考える
水道機工株式會社
http：//www.suiki.co.jp
公共事業本部　事業推進部
〒156－0054 東京都世田谷区桜丘5－48－16
TEL（03）3426－2135（代表）

貯える技術
ステンレス配水池
新発想
1 耐震構造 フレーム&パネル構造
2 流入管側遮水システム フロート式逆止弁
3 流出管側遮水システム サイホン式遮水弁
save
緊急遮水システム付配水池

BELTECNO
株式会社 ベルテクノ 水道事業部
〒460-0008 名古屋市中区栄2-5-1　TEL 052-219-9001(代)　FAX 052-219-9006
URL http://www.beltecno.co.jp/